

1. 利用コンテンツ



① NEWS WEB EASY 内のサイト「絵でわかる 地震だ！どうする？」




② クリップ「緊急地震速報のしくみ」

2. 対象の子どもと目的・場・形態

学年／年齢	小1～2	出身国・地域 (長期滞在していた)	中国・フィリピン・ベトナム	文化背景		漢字圏／非漢字圏		滞日期間			1年未満
日本語の力	聞く・話す	やさしい日本語でゆっくり話すと聞き取ることができるようになってきた。短文で話すことにだんだん慣れてきている。読んで言葉から理解するより、聴きながら絵で確認し、言葉を読む方が理解しやすい。									
	読む・書く	指で字を追いつながりながら声に出して読もうとする。支援を受けながら一文を丁寧に書こうとする。									
学習目的	日本語の学習		学習の場	日本語の教室等			形態	少人数グループ			

3. 授業の様子

日本語の目的	防災について知った大切な言葉をつなげて伝えようとする。どう行動したらいいかを理解し、「ぼうさいカルタ」等で表現する。絵で分かる言葉を場面でもらえ、話すことや、書くことができる。やさしい日本語で書かれた文を聴きとることや読むことができる。(個の実態により目標は異なる)
--------	---

活動の展開 ◇ 教師の支援・留意点	子どもの参加の様子・教師の工夫と意図
<p>1. じしんだ！どうする？ ～地震のときの行動について考える</p>	
<p>① サイトの絵を見て地震のことを思い出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>サイト 「絵でわかる 地震だ！どうする？」</p> <p>※一番上の絵</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 絵の下の文を読む。 ○ 地震の時のエピソードを話す。 </div>	 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>地震の時のことを思い出した子どもたちは、地震のときどうするのかをスモールステップで学びます。本サイトの1枚ずつの絵が、子どもにとって、ちょうどよいスモールステップになっています。やさしい日本語で書かれたタイトル・見出しは、日本語学習の教材としても適しています。</p> </div>

② どうするか考える。

- ◇避難訓練を思い出すよう促し、どうしてそうするのか問いかける
- ◇「おためしでやってみようか？」と誘う

絵で学んだ後、実際に疑似体験をします。本実践では、教室にいるときを想定して、机の下にもぐる場面の体験をしました。机の脚をもつのは、なぜ？ どうやってもつ？ 机の脚をもたないとどうなるの？ 机の脚を斜めに持つとどうなるの？ これらの疑問は、体験し実感しながら会得できるようにしました。



あしをもたないと
つくえが にげちゃう！

あしは、ななめで もつと
つくえが にげないね。

2. 緊急地震速報って何？ ～音を知り、意味を理解する

① どんな音がするのか動画で確かめる。

クリップ視聴
「緊急地震速報のしくみ」
(0:00 ~ 0:05)

※速報の音

- ◇「この音は、どういうお知らせ？」と問いかける

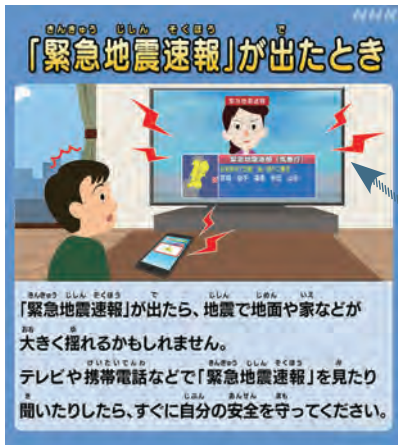


この音聞いたことある。
「大きくゆれますよ。」のこと。

サイト
「絵でわかる 地震だ！ どうする？」

※ 2枚目の絵「『緊急地震速報』が出たとき」

- 絵の下の文を読む。



子どもたちのアイデア！
この赤いところ
タッチすると
音出ると いいね

パパやママが いないとき
どうする？

どうしたらいいのか
ここに かいてある！



ママ知らないの。
だから、ママに教える。

わたし、ここのページ
じぶんで いけるよ。

② どう行動したらいいのか調べる。

クリップ視聴
「緊急地震速報のしくみ」
(0:50 ~ 1:06)

※緊急地震速報が出たら…解説部分

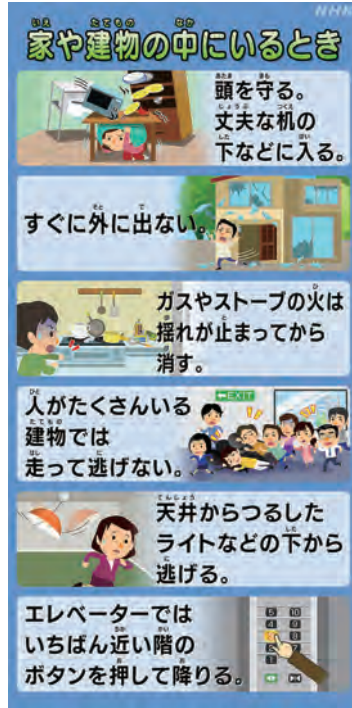
サイト
「絵でわかる 地震だ! どうする?」

※3枚目の絵「家や建物の中にいるとき」

※4枚目の絵「外にいるとき」

◇自律学びの時間をとる。

◇動画を見るときは、自分のペースで速度を変えても良いと伝える

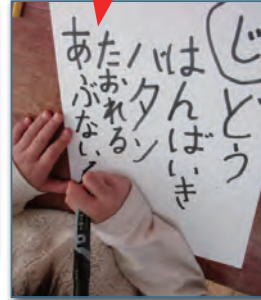
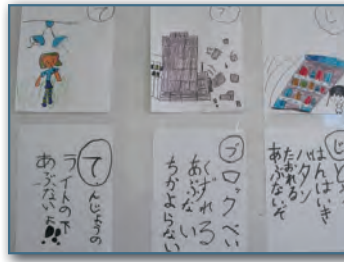


3. どうする? 今、どうしてみたい? ~自分にできることを考える

○「ぼうさいカルタ」をつくる。

◇自律的な学びでは、必要に応じて個別支援する。

◇防災に関する語彙の意味理解は、丁寧に支援する。



知らせたい! という気持ちが高まり、本実践では「ぼうさいカルタ」でまとめました。絵で伝える・やさしい日本語で伝えるという「絵でわかる 地震だ! どうする?」で学んだことを再現するような流れでした。クイズやNEWS等も可能です。

4. ぼうさいカルタ (クイズ・NEWS) をしようかしよう。

① 自分がつくったものを紹介する。

② 友達がつくったものを紹介する。



呼びかけの文を作る際、本サイトのタイトル等のやさしい日本語に立ち返り、読み直しながら、相手に伝わる表現を学ぶこともできました。

授業直後、ALT に母語で「緊急地震速報」について伝える子どもの姿もみられました。

■次時以降

- 毎時間、本サイトを活用し防災の知恵を増やす。
読んでみたくなる防災お知らせコーナーに掲示。
正しい表現法を探る。書き換え可能とする。
- 子どもの作品をラミネートした大型カルタで子どもたちが遊びながら防災の知識を増やす。
- 在籍クラス担任と打合せし、クラスメイトにNEWS を発表したり、クイズを出題したりする。

ぼうさいクイズ例

地震だ！どこが あんぜん？
どこが あぶない？

- A ブロック塀 近く
- B 大きなビル・マンションの中
- C 自動販売機 近く

■授業者のふりかえり

多文化・多言語な子どもたちの中には、学校で実施する避難訓練で集団行動をしていますが、なぜそうするのか分かっていないことが多くあるようです。出身国により、避難方法が異なるので、家庭での教えとの違いに戸惑っていた子どももいることが分かりました。日本で、どう避難するとよいのかということは、実は家族にとっても最大の関心事でありながら情報が得にくい状況であることに気付きました。

本実践で活用した「絵でわかる 地震だ！どうする？」は、子どもたちだけでなく、多文化・多言語で暮らす家族や知人にとっても有益な情報源になります。授業では、絵とふりがなのついたタイトルをもとに地震が起きた時、どうするのかその理由を考え、可能な限り体験しながら確かめました。知るだけでなく、知ったことを言語活動でアウトプットしようとすることも重視しました。子どもたちが在籍学級に戻ってミニ先生になり、サイトを開く手引きをして大きな画面にクリップの絵や文字を映したり、自分の防災カルタを使い「ここはあぶない」など伝えたりして、生き生きと活躍していました。また、帰宅後、家族と一緒にサイトを開き、母語で「防災」について語り合ったという話も耳にしました。

やさしい日本語で作成されているので、特別の教育課程の日本語学習の教材としても有効です。また、避難訓練時の防災教育の資料としても全校に見せたいという声も職員の中からあがりました。

※ 執筆者の所属は2022年度のものです。